



宮司プレス 第百六十七号

彦島八幡宮 宮司 ニュース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和三年三月二十一日

◇宮司の柴田です。 過日(かじつ)の三月

十一日(木)の午前七時半より、東日本大震災復興祈願祭を斎行(さいこう)致しました。

東日本大震災は、大地震・津波・原発事故という多重(たじゅう)の大災害でした。「シ

ビア アクシデント」、「神も仏もない災害」といわれるような大災害だったのです。 時の歩みは、止まることなく、しかも、少しも

その速度を緩めることなく、消えゆく日数(ひかず)は矢のごとく、十年の歳月(さいげつ)が流れました。

◇幕末(ばくまつ)から明治維新の儒学者で、備中松山藩(びっちゅうまつやまはん、今の岡山県の西半分の地域)に仕えた山田方谷

(やまだ ほうこく)さんは、至誠惻怛(しせいそくだつ)という言葉を残されました。

松山藩に赴任(ふにん)した方谷さんは、ま

ず、藩内(はんない)の貧困(ひんこん)や病気に苦しむ民(たみ)の様子(ようす)を、

くまなく、見て回られたそうです。「誠の

心とは、苦しんでいる人や困窮(こんきゅう)している人々に心を寄せて、与えられたこと

に全力を尽くすことだ」と、仰(おっしゃつ)たのです。

私共も、被災された方々、大切な人を亡くされた人々のことを忘れないで、

今、できることに最善を尽くさなければなら

ないと思います。 その山田方谷さんは、のちに、江戸に遊学(ゆうがく)し、佐藤一斎(さとう いっさい)さんに入門(にんもん)されます。

◇その佐藤一斎さんは、「言志四録(げんししりく)」に、「春風接人 秋霜自肃(しゅんぷうをつてみずからしゆくす)」と述べられています。

す。 人には、春風のようなさわやかで朗(ほ

がら)かに接し、しかしながら、自分に対しては、秋の霜の厳(げん)しさで、慎(つつし)みて、

怠(おこた)らないという教えであります。

なかなか、実践(じっせん)することは至難(しなん)の業(わざ)ではありますが、

そのように、心掛けることが大切だと教えられたのです。 方谷さんの仰る、「惻怛」にも

通(つう)じるものがあるのではないでしょう

か。 三月の限定御朱印には、前述の「春風接人 秋霜自肃」を、水茎(みずくき)の

跡(あと)が、麗(うるわ)しくはありませんが、拙(つたな)いながら、浄書(じょうしょ)させて頂きました。

◇上皇陛下上皇后陛下は、震災後の平成二十四年一月の歌会始(うたかいはじめ)の儀

(ぎ)に、御製(ぎよせい)、天皇陛下下の和歌(ぎ)に、御歌(みうた)、皇后陛下下の和歌(ぎ)を詠(よ)まれて

まっています。 当時、上皇陛下上皇后陛下は、天皇陛下皇后陛下であられました。

上皇陛下は、ヘリコプターから、御照覧(ごしょうらん)しようらん)あそばされた景色を詠(よ)ま

れました。 「津波来(こ)し 時の岸边は 如何(いかに)なりしと 見下ろす海は 青く鎮(しず)まる」と詠

まれたのです。 もちろん、その「青く鎮(しず)まる海」の岸边からの陸地は、惨禍(さんか)の景色が広がっているにも関(か)わらず、

「青く鎮(しず)まる」と詠(よ)まれたのです。 「嚴父慈母(げんぶじぼ)」という、厳(げん)しさと慈(じ)い

つくしみ、そして、優(やさ)しさを併(あ)せ持つ大自然(たいてん)、その目に見えない大きな力をさとされた

のだと思います。 上皇后陛下は、

「帰り来るを 立ちて待てるに 季(とき)のなく 岸(き)といふ文字を 歳時記に見ず」と詠(よ)ま

れました。 行方(ゆくえ)のわからない大切な人を岸边で待っている人に思いを寄せられて

おられます。 せめて、「岸」が、季節を表す言葉であれば、その季節を忘れないのにと

う、けつして風化(ふうか)させてはいけないということ強く感じさせられました。そのようなことに思いを巡らしながら、真心を込めて御奉仕申し上げます。

◇天皇陛下皇后陛下も、政府主催の追悼式典において、「今後とも被災地の方々の声に耳を傾け、心を寄せ続けていきたいとおもいます」というお言葉を述べられています。実は、「至誠惻怛」のお手本をお示しになられているのが、天皇陛下皇后陛下を始め、御皇室の御存在なのではないかと思えます。そのことが、どれだけ、私共の心の支えになっていることでしょうか。

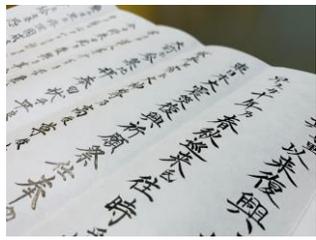
◇東日本大震災から十年の節目の年を、新型コロナウイルス禍(か)の最中に迎えることとなつてしまいました。しかも、今回の危機は、世界規模のものであります。人に感染する可能性のある未知(みち)ウイルスは、八十二万種といわれているそうです。今も、これからも、これまでの私共の生活様式、意識、心掛け等根本的に変わっていきます。われわれは、生態系(せいたいけい)の一員に過ぎないのであります。「恐(おそ)れ」と「敬(うやま)う」の気持ちのミックスした「畏(かしこ)む」という心を忘れてはならないのです。もっと謙虚に、「畏む」という心を大切にしなければなりません。

◇安積得也(あずみ とくや)さんに、「語る人貴(とうと)し 語るとも知らで からだで語る人 さらに尊(とうと)し 導く人貴し 導くとも知らで うしろ姿で導く人 さらに尊し」という詩があります。日毎、月毎、季節ごとのお祭りを、衿(えり)を正して、「至誠惻怛」、「秋霜自肅」、真心こめて御奉仕申し上げ、「もとほる」、元に戻る、コロナ禍の一日も早い終息を心から祈りたいと思います。そして、人々が、「春風接人」笑み栄える日々が続きますようお願い申し上げます。 御自愛ください。

◇三月の祭典行事報告(予定も含む)

▼月次祭 *三月一日、三月十五日

▼東日本大震災復興祈願祭 *三月十一日



▼南風泊恵比須神社例祭 *三月十五日

▼春季祖霊祭 *三月二十日

※家の宗旨(しゅうし)が神道(しんとう)の方の合同の霊祭(みたままつり)

▼朝粥会 *二月二十一日

◇三月の宮司動静(予定も含む)

▼彦島八幡宮関係団体

□敬神婦人会会計監査 *三月三十一日

□維蘇志会会計監査 *三月三十一日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

□山口県神社庁教化部教化委員会

□同祈年祭

□同神宮大麻増頒布推進委員会

*三月八日

□同祭典後講話研修 *三月十一日

※豊田町、豊田神社にて開催

□同祭式研修会

*三月十七日

□同霜関支部神宮大麻頒布終了奉告祭

*三月二十四日

□同神職養成講習会講師打合

*三月二十六日

□同講演演習講師養成講習会

*三月二十六日神社庁例祭

▼教誨活動 ※美祢社会復帰促進センター

□集日教誨男子

□集日教誨女子

*三月二十二日

▼その他

□迫町自治会役員会

*三月二十四日